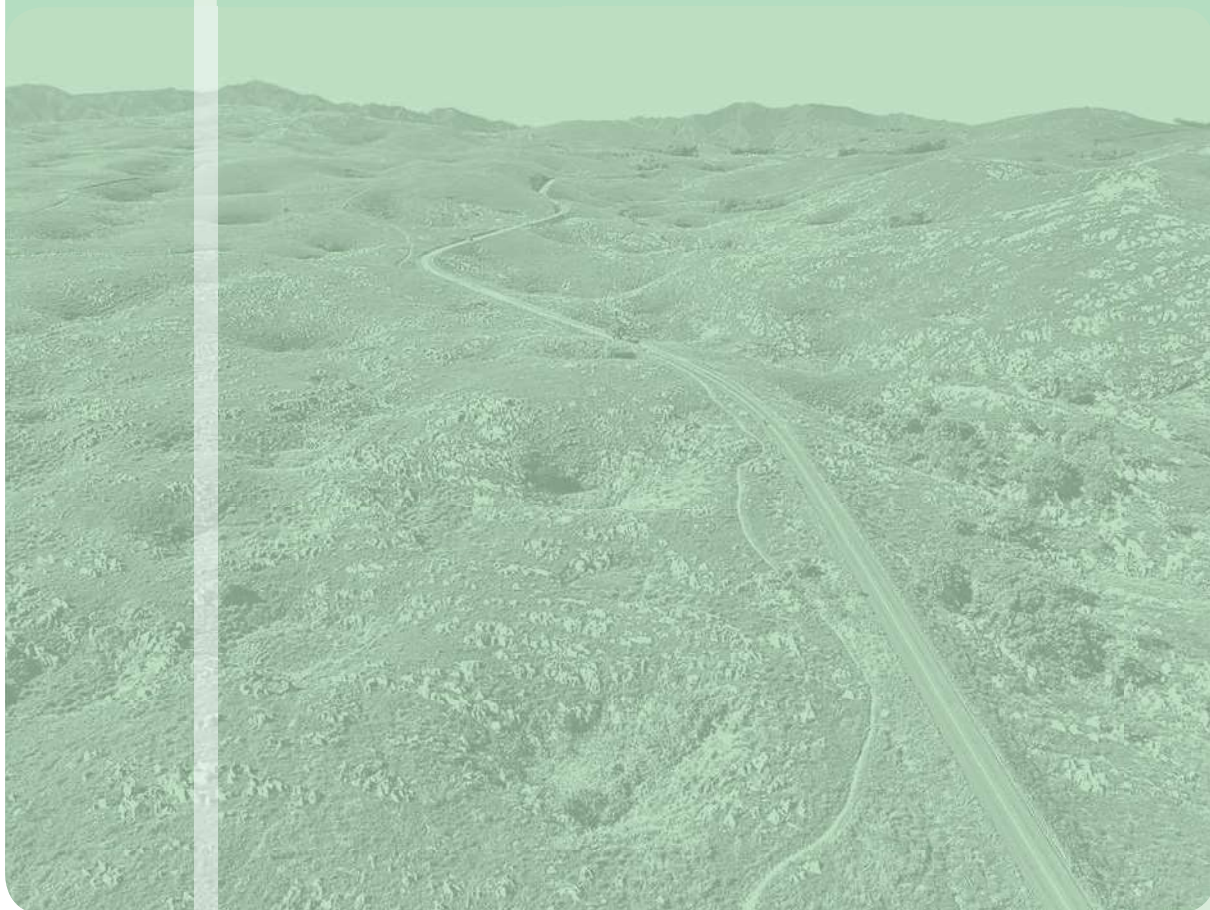


第1章 序章



1. 計画策定の趣旨

本市では、令和2年に「第二次美祢市総合計画」を策定し、目指すべき将来像を『若者・女性・地域がかがやき こどもの笑い声が響く「誇れる郷土・秋吉台のまち」』とし、市民、地域、企業、各種団体、行政が一体となってその実現に向けた市政運営を進めてきました。

その間、人口減少、少子高齢化に伴う経済構造や人口構造の変化は一層進行し、地域経済の縮小により担い手不足などが深刻化しています。また、大規模な自然災害への対応、更にはコロナ禍を契機とした新たな日常への対応、デジタル改革など、本市が直面する課題は複雑多岐にわたっています。

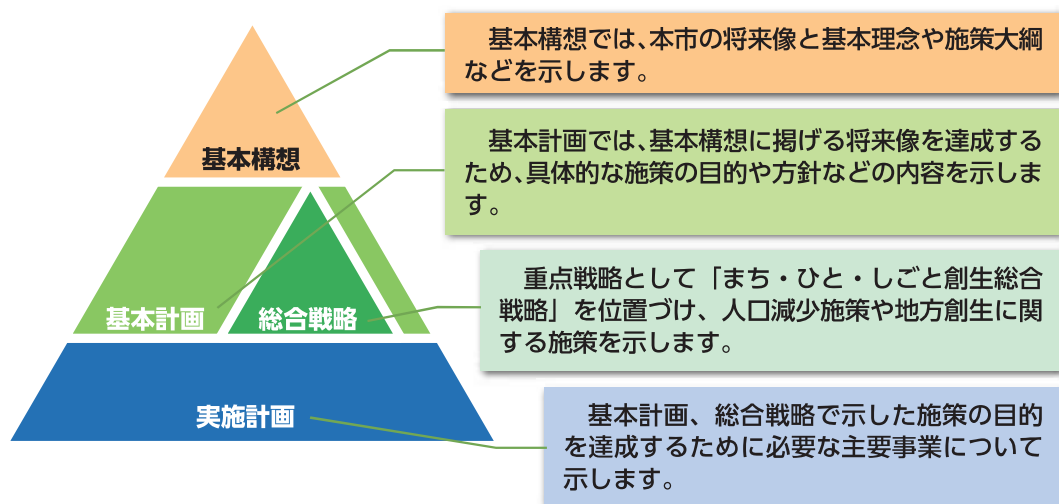
こうした状況に柔軟に対応し、厳しい財政状況においても将来にわたって持続可能なまちづくりを実現するためには、行政と市民の協働及び産学官連携などに積極的に取り組み、既存の手法にとらわれず、経営感覚を持った行政運営を推進する必要があります。

こうした中、総合計画を構成している前期基本計画と第2期総合戦略の計画期間が令和6年度をもって終了することから、社会情勢の変化を的確に捉え、市民ニーズの変化に対応したまちづくりの新たな指針として、総合計画全体を整理し、後期計画として策定するものです。

2. 計画の位置づけ

(1) 計画の構成

総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「総合戦略」、「実施計画」で構成されます。

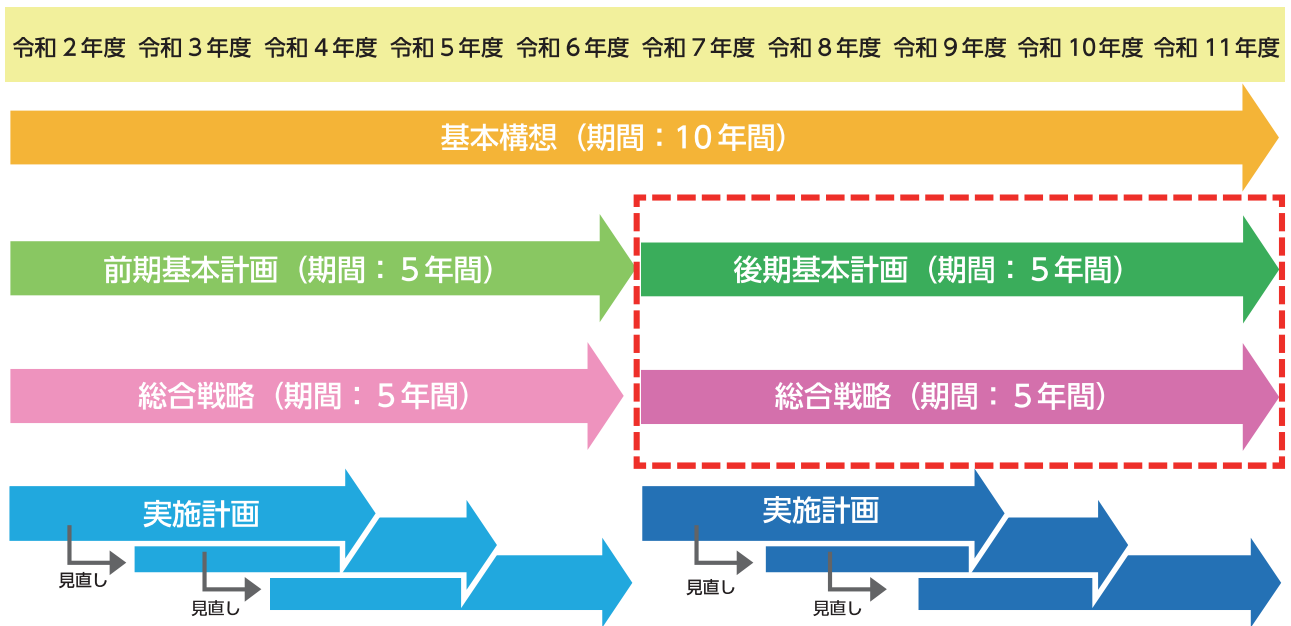


(2) 計画の期間

計画期間は、以下に示すように、基本構想は令和2年度から令和11（2029）年度の10年間、基本計画は後期計画が令和7（2025）年度から令和11（2029）年度の5年間とします。

また、重点戦略として位置づけられている「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も5年間を計画期間とします。

実施計画は3か年計画としますが、毎年見直しを行うローリング方式とします。



3. 社会潮流と美祢市の現状

(1) 社会潮流

第二次美祢市総合計画前期計画策定後、コロナ禍を経て、働き方や暮らし方に対する意識の変容や不安定な国際情勢の影響を受けた物価・資源高など、本市を取り巻く社会経済環境は様々な面で大きく変化しています。本計画策定において留意すべき、時代の潮流について整理します。

① 人口減少の進行、人生 100 年時代の到来

- 国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口（令和 5 年推計）（出生中位（死亡中位））では、令和 52（2070）年にはわが国の総人口は 8,700 万人に減少するなど、人口減少が将来にわたって続くと推計されています。平均寿命が高い水準にある中、出生率の低下による人口減少は、必然的に高齢化を伴うこととなり、総人口に占める 65 歳以上人口の割合は、令和 52（2070）年には 38.7%へと増加する見込みです。
- 出生数の減少する中、国は、こどもや若者の視点、子育て当事者の視点に立った政策を進め、こどもや若者が自分らしく健やかに幸せに成長できる社会を目指しています。
- 生産年齢人口の割合は低下していき、労働力不足や地域コミュニティを支える担い手不足、医療・介護等社会保障制度の維持、公共施設等のインフラの維持・管理に関して大きな影響を与える可能性があります。
- 年々深刻化する人手不足には労働条件等の改善とともに、女性、高齢者、外国人をはじめとする多様な人材の活躍が一層求められています。

② 技術進展によるデジタル社会の形成

- コロナ禍を契機として、テレワークの導入や教育分野における ICT 環境の整備などが急速に進むとともに、制度や組織のあり方をデジタル化に合わせて変革する社会全体のデジタルトランスフォーメーション（DX）が求められています。
- 「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」を目指して、行政手続のデジタル化だけではなく、農業、観光、医療・介護、交通等、あらゆる産業・生活分野で DX を推進し、ICT を活用したサービスが展開されていくことが予測されます。
- 情報セキュリティの強化や ICT を使えない層で便利なサービスや必要な情報が受けられないといった情報格差（デジタルデバイド）の拡大が懸念されます。



③ 激甚化・頻発化する災害への対応

- 気候変動等に伴う災害の激甚化・頻発化により、直接的な人的被害はもとより、住宅被害等の経済被害もこれまで経験したことのないような規模となっており、今後更に甚大なものになると想定されています。
- 誰もが、より激甚化する風水害の脅威を認識し、これまでの考え方に捉われずに、社会全体でこの危機に立ち向かうことが求められています。
- そのためには、社会のあらゆる関係者が、防災・減災を意識し、行動することが当たり前となる、防災・減災が主流となる社会の形成を目指して、国を挙げて災害対策に取り組むことが必要とされています。

④ 脱炭素社会に向けた動向

- 地球温暖化によるここ数十年の気候変動は、人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与えています。
- 令和 2 年 10 月、国は、令和 32（2050）年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050 年カーボンニュートラル」を宣言しました。この宣言を受け、カーボンニュートラルを成長・イノベーションの機会と捉え、国や地方自治体、各企業で様々な取組が進められています。
- 地方自治体では、脱炭素に向けた取組を単に気候変動問題への対応として位置づけるのではなく、市民や企業との連携の下で推進し、地域課題解決・地方創生につなげていくことが期待されています。



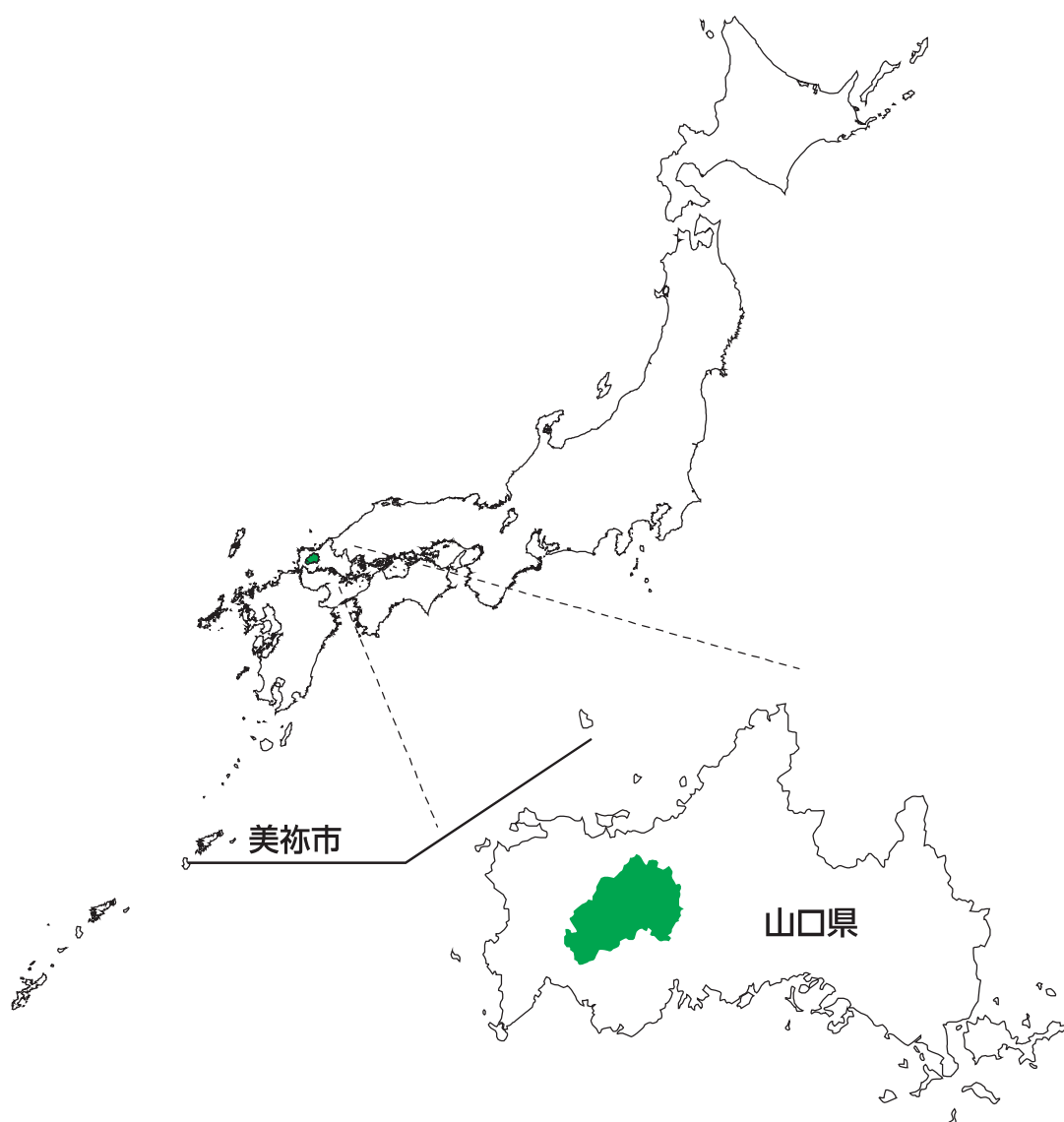
(2) 美祿市の現状

① 位置・地勢

本市は、山口県西部のほぼ中央に位置し、総面積 472.64 km²を有していますが、三方を海に囲まれた山口県にあって唯一海に面しておらず、四方を山に囲まれた自然豊かな内陸の地域特性のあるところです。

東は山口市、西は下関市、南は宇部市・山陽小野田市、北は長門市・萩市に接しています。

本市の大きな魅力のひとつに、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」、日本屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」をはじめとする悠久の時の流れを感じる大自然を有しており、市内全域が「Mine 秋吉台ジオパーク」として日本ジオパークに認定されていることが挙げられます。

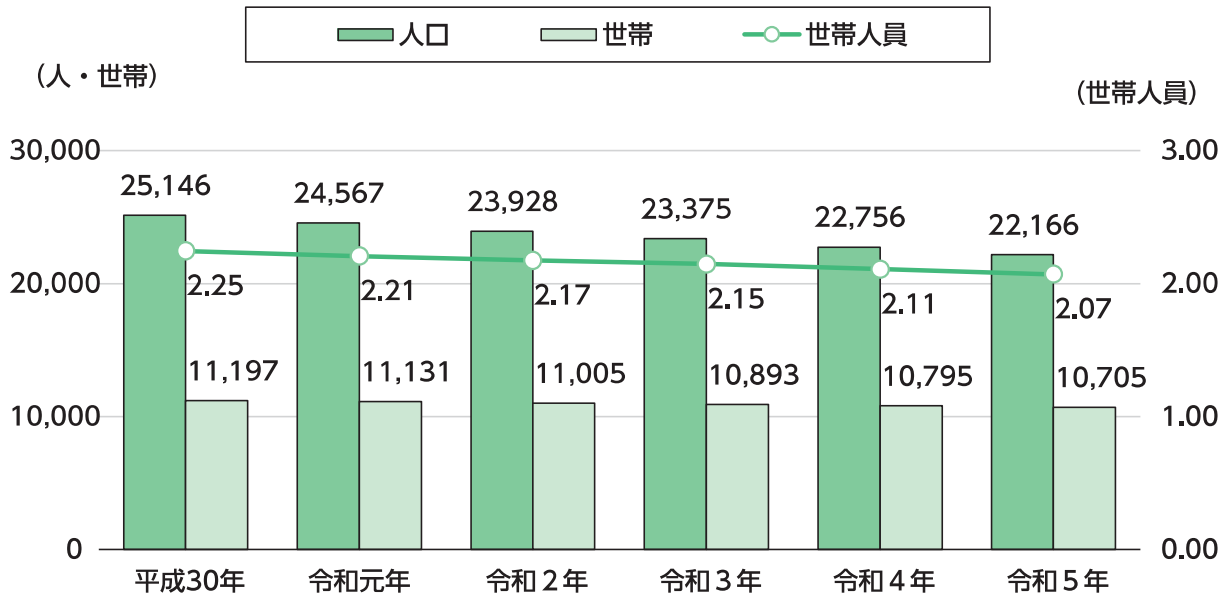


② 人口・世帯

本市の人口は、平成30年時点で25,146人でしたが、人口は年々減少し、令和5年では22,166人となっています。世帯数についても減少傾向にあり、令和5年では10,705世帯となっており、世帯人員は2.07人と縮小傾向にあります。

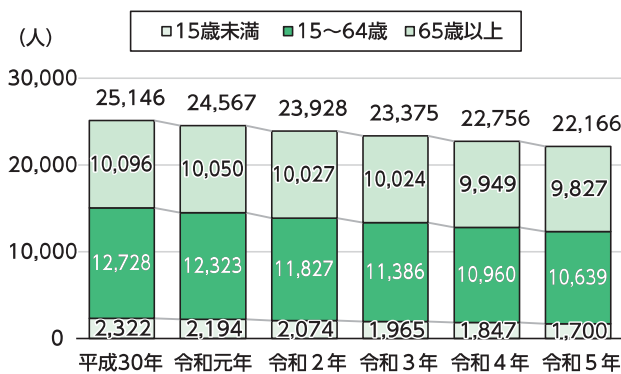
年齢3区分別人口では、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳～64歳）が数・割合ともに、年々減少しており、老年人口（65歳以上）も減少に入っており、少子高齢化と人口減少の進行がみられます。

◆人口・世帯数の推移

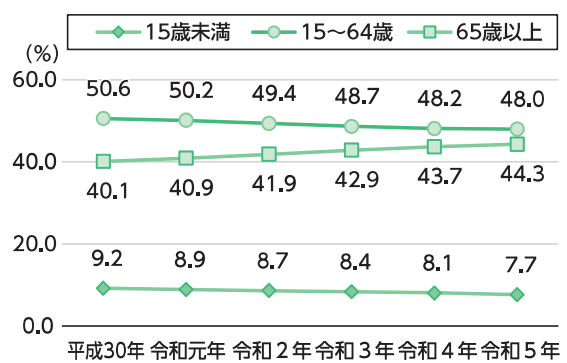


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

◆年齢3区分別人口の推移



◆年齢3区分別人口割合の推移



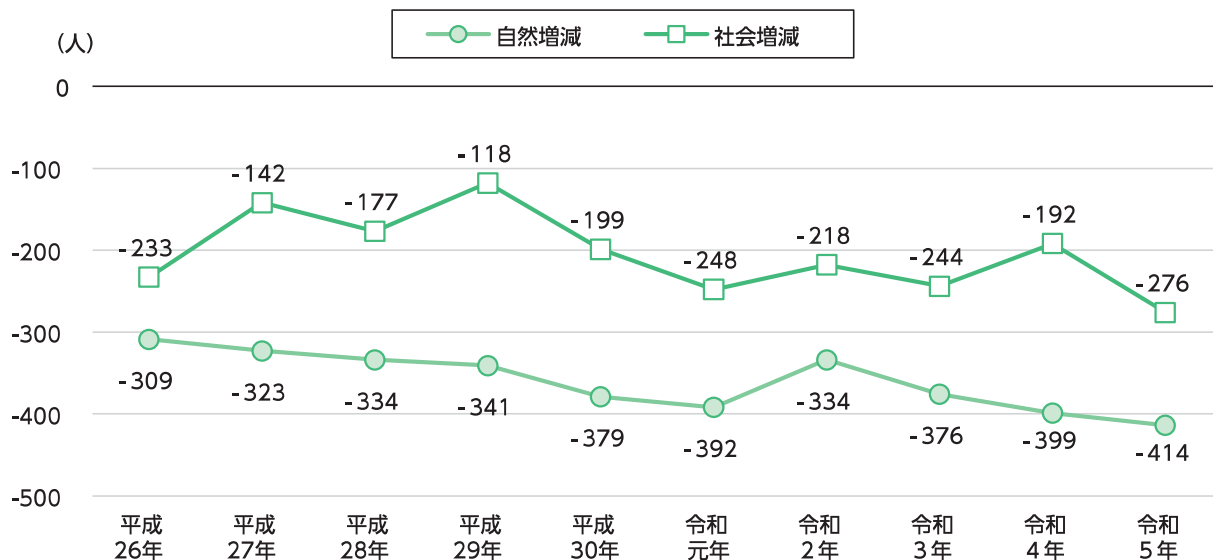
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



③ 人口動態

本市の人口動態をみると、自然増減は死亡が出生を上回る自然減、社会増減では転出が転入を上回る社会減と、ともに減少が続いており、特に自然減が大きく、人口減少の大きな要因となっています。

◆人口動態増減の推移

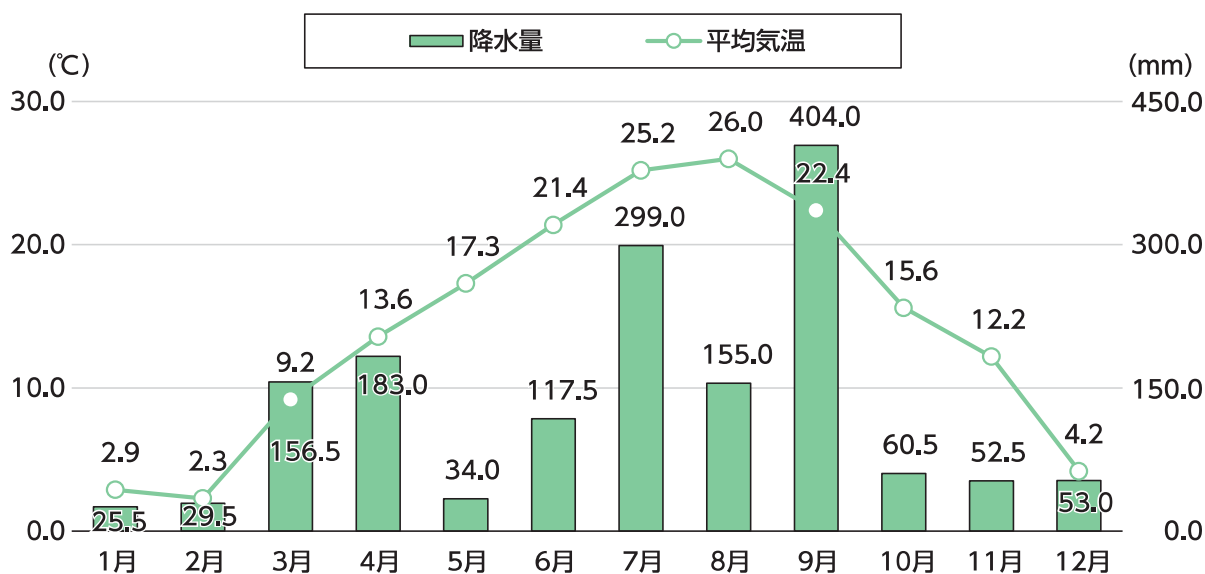


資料：山口県人口移動統計調査

④ 気象

本市の気象は、年間平均気温が 14.4℃、年間降水量が 1,570mm となっています。中山間地域であることから寒暖差のある内陸型気候の特徴を有していますが、年間を通じて四季の変遷を感じながら快適な生活を送ることができる気象環境となっています。

◆秋吉台地域気象観測所 月別気象表 (令和4年)

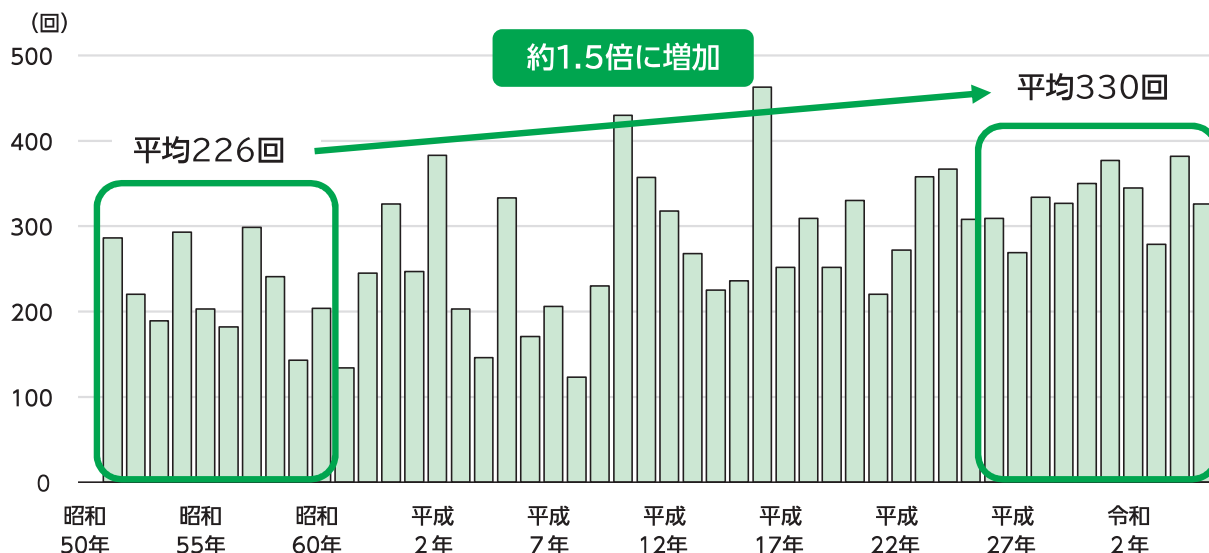


資料：山口県統計年鑑



全国の1時間降水量（毎正時における前1時間降水量）50mm以上の大雨の年間発生回数は増加しています。また、最近10年間（平成26年～令和5年）の平均年間発生回数（約330回）は、統計期間の最初の10年間（昭和51年～昭和60年）の平均年間発生回数（約226回）と比べて約1.5倍に増加しています。

◆全国アメダス1時間降水量50mm以上の年間発生回数

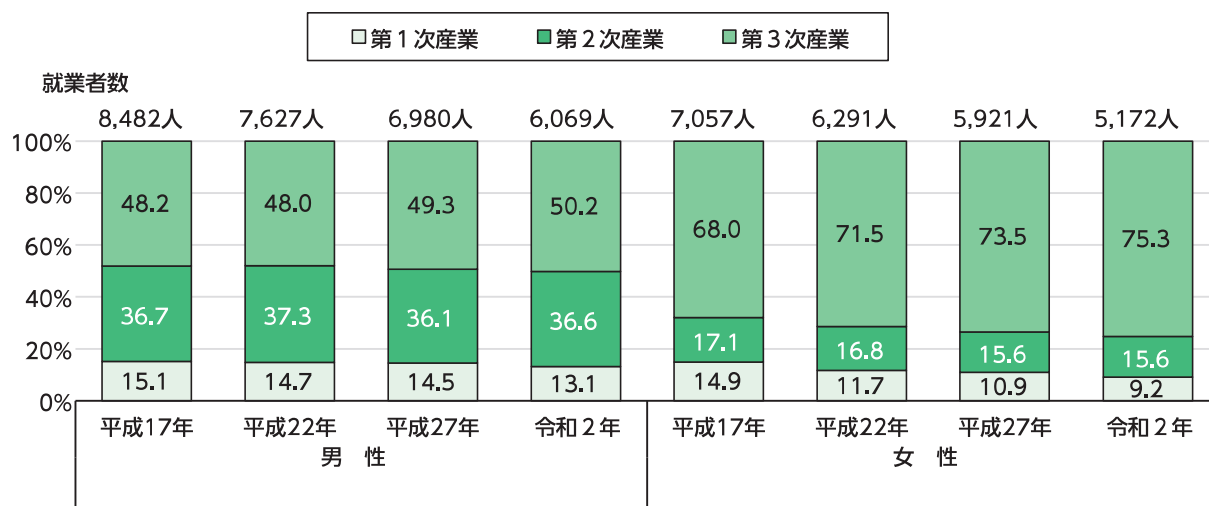


資料：気象庁

⑤ 産 業

本市の産業大分類における男女別・産業別の就業率をみると、人口減少を背景に男女ともに就業者数は減少傾向で推移しています。男女ともに第1次産業、第2次産業の就業率が低くなり、第3次産業の就業率の増加傾向がみられます。

◆男女別産業大分類就業率の推移



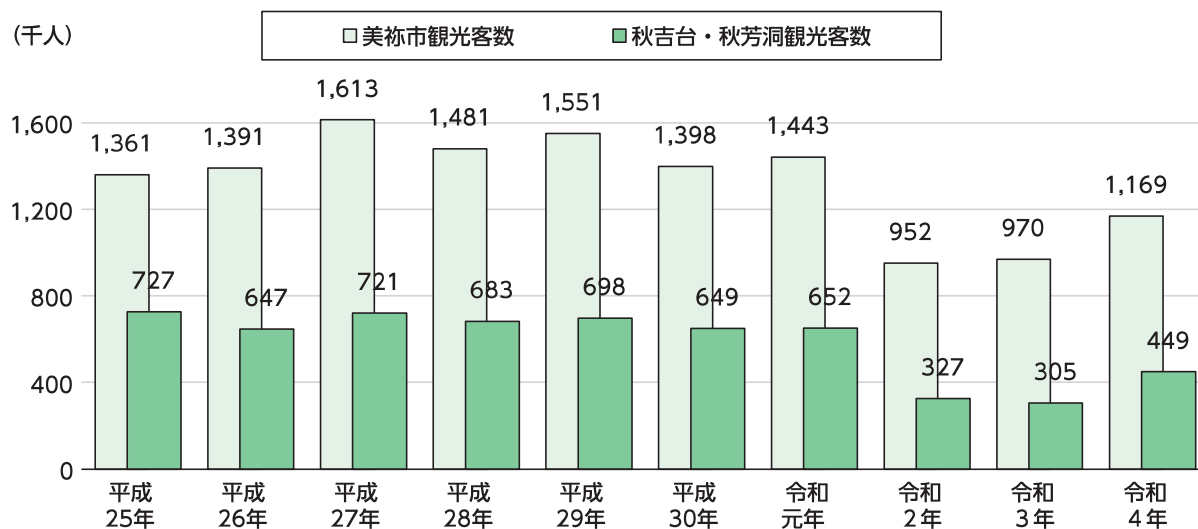
資料：総務省「国勢調査」



⑥ 観光

本市の観光客数は、令和2年には新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により減少しましたが、その後は回復傾向となっています。

◆美祢市及び秋吉台・秋芳洞の観光客数の推移



資料：山口県観光客動態調査

⑦ 財政状況

自主財源の乏しい本市においては財政力指数が低い水準で推移しており、財政の硬直度を示す経常収支比率は景気に伴う税収状況や交付税制度の状況に大きく左右されています。

実質公債費比率、将来負担比率などの本市の負債状況を示す指標は、合併後健全化を進めてきましたが、近年の大規模な建設事業の影響により、上昇する見込みとなっています。

◆主要財政指標の推移

	財政力指数	経常収支比率(%)	実質公債費比率(%)	将来負担比率(%)
平成25年	0.369	90.2	15.5	106.8
平成26年	0.373	91.0	15.1	78.2
平成27年	0.378	91.4	14.7	58.0
平成28年	0.385	96.2	14.4	46.9
平成29年	0.379	95.9	14.0	49.7
平成30年	0.376	96.1	12.9	29.2
令和元年	0.373	95.0	10.9	26.4
令和2年	0.380	94.5	9.0	28.1
令和3年	0.381	90.3	8.1	25.2
令和4年	0.386	96.1	8.1	44.4

資料：総務省「主要財政指標一覧」

4. 市民の意識(各種市民アンケート結果)

(1) 調査の目的

第二次総合計画の前期基本計画が令和6年度をもって5年の計画期間を終えるため、令和7年度からはじまる後期基本計画の策定にあたり、今後のまちづくりの方向性や課題を検討する上で資料とすることを目的としています。

(2) 調査の概要

【市民アンケート調査】

調査対象者：美祢市にお住いの18歳以上の方（令和5年9月1日現在）

調査期間：令和5年9月～10月

調査方法：郵送による調査票の配布・回収、及びWeb回答

調査数：3,000件（名宛人不在で帰ってきたもの6件）

有効回収数：1,240件（Web回答188件）

回収率：41.4%

※ 以下、「市全体」の表記はこの市民アンケートによる全体集計の値を指します。

【中高生アンケート調査】

調査対象者：美祢市で学ぶ中学校、高等学校の2年生（令和5年8月1日現在）

調査期間：令和5年8月～9月

調査方法：学校による直接配布・Web回答

調査数：270件（中学生151件 高校生119件）

有効回収数：242件（中学生133件 高校生108件 一部無回答1件）

回収率：89.6%



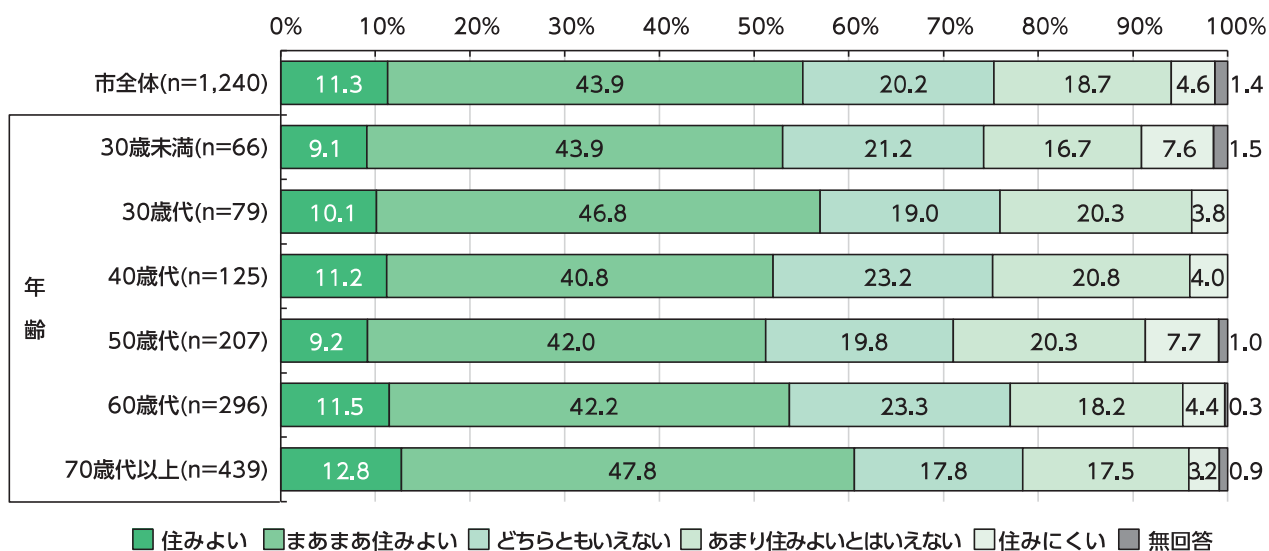
(3) アンケート調査結果

① 住みよさ

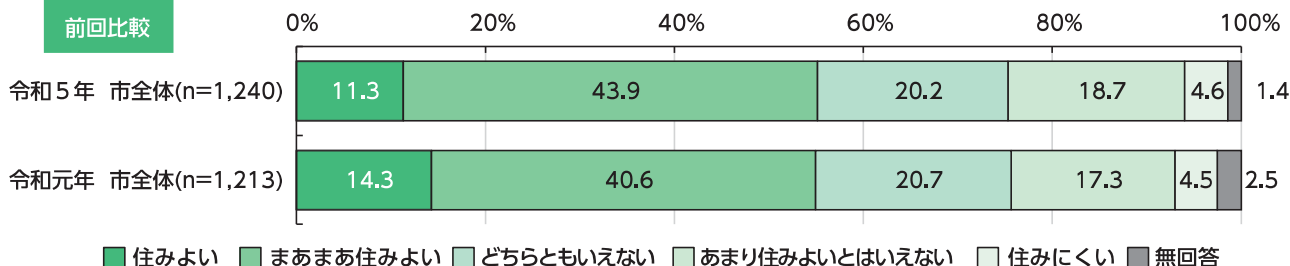
市全体の住みよさについては、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせると55.2%となっており、前回比較では0.3ポイント高くなっています。

中高生では、中学生で1.7ポイント低下、高校生で15.6ポイント高くなっています。

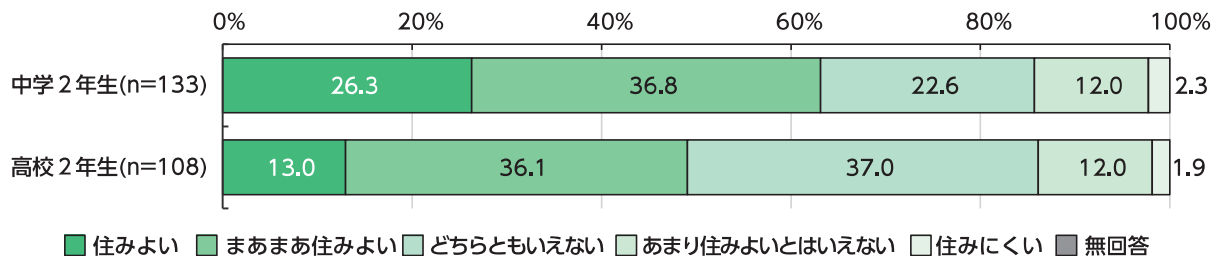
【市の住みよさ（市民）】



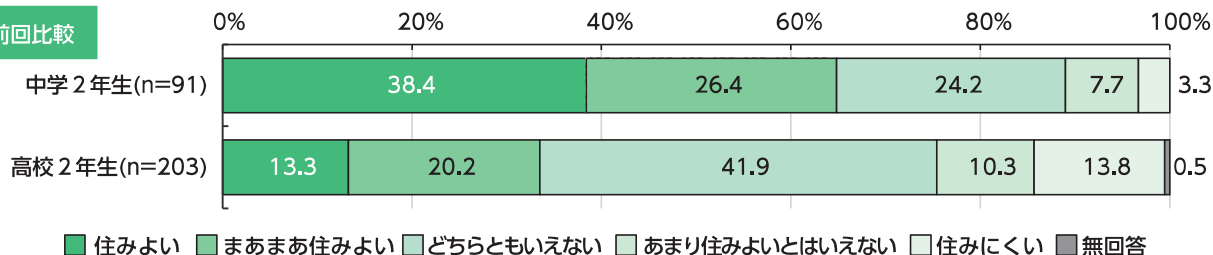
前回比較



【市の住みよさ（中高生）】



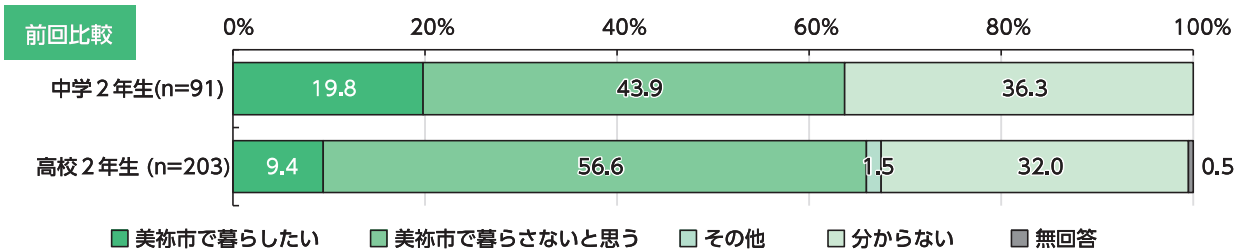
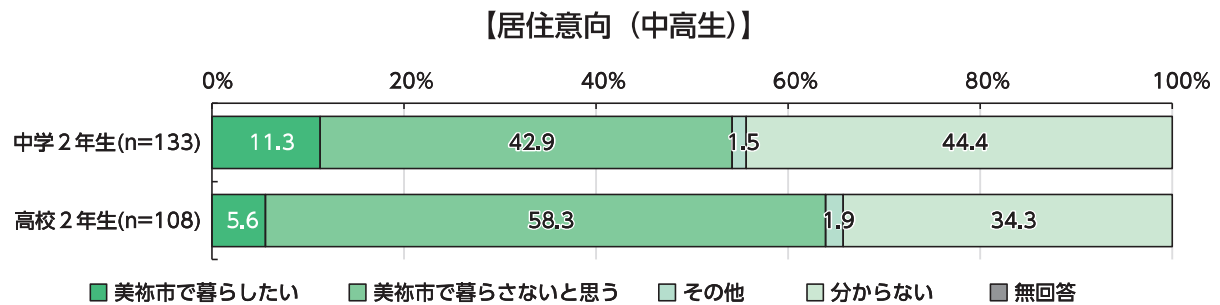
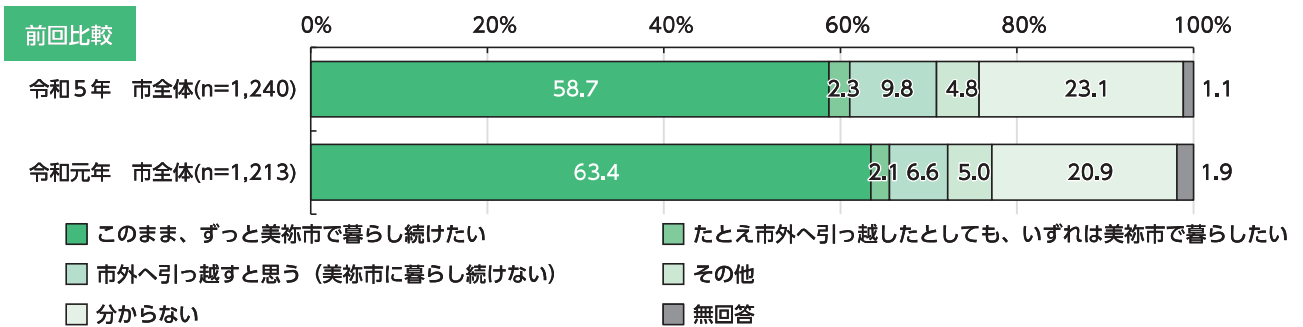
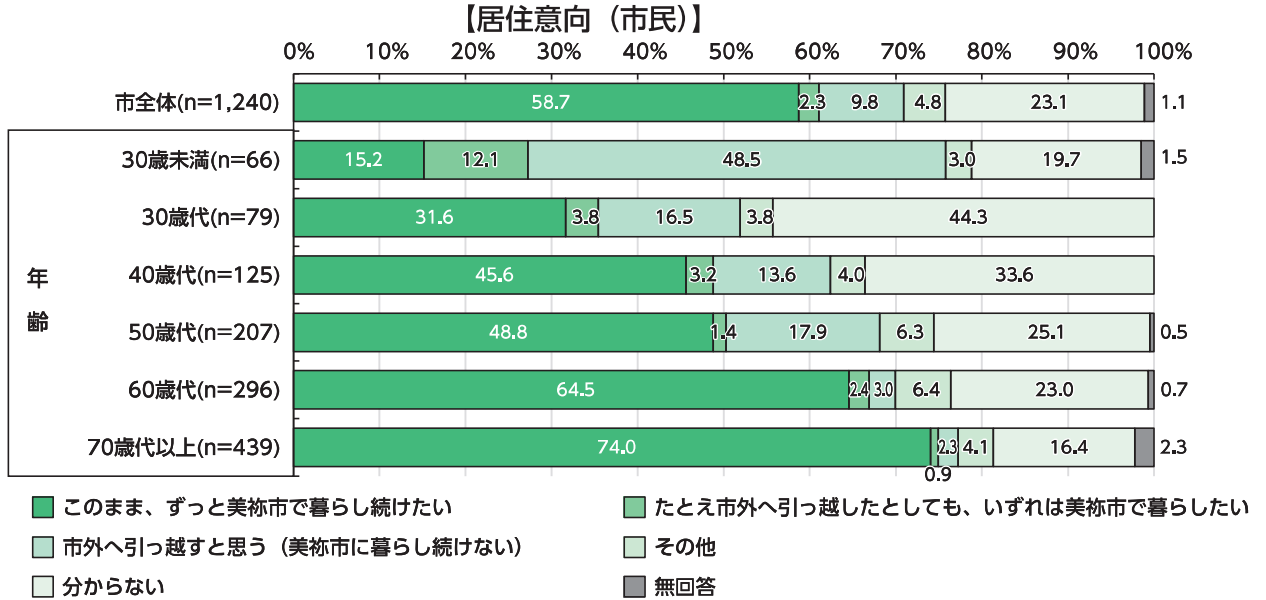
前回比較



② 居留意向

市全体の居留意向については、「このまま、ずっと美祢市で暮らし続けたい」と「たとえ市外へ引っ越したとしても、いずれは美祢市で暮らしたい」を合わせると61.0%となっており、前回比較では4.5ポイント低くなっています。

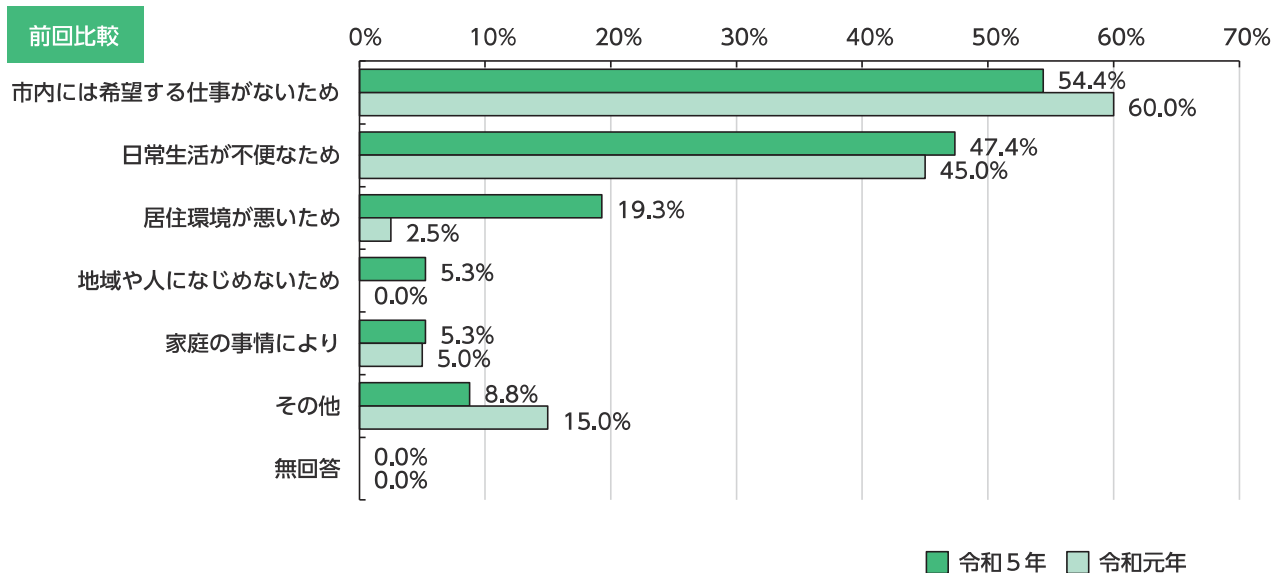
中高生では、中学生で8.5ポイント、高校生で3.8ポイント低くなっています。



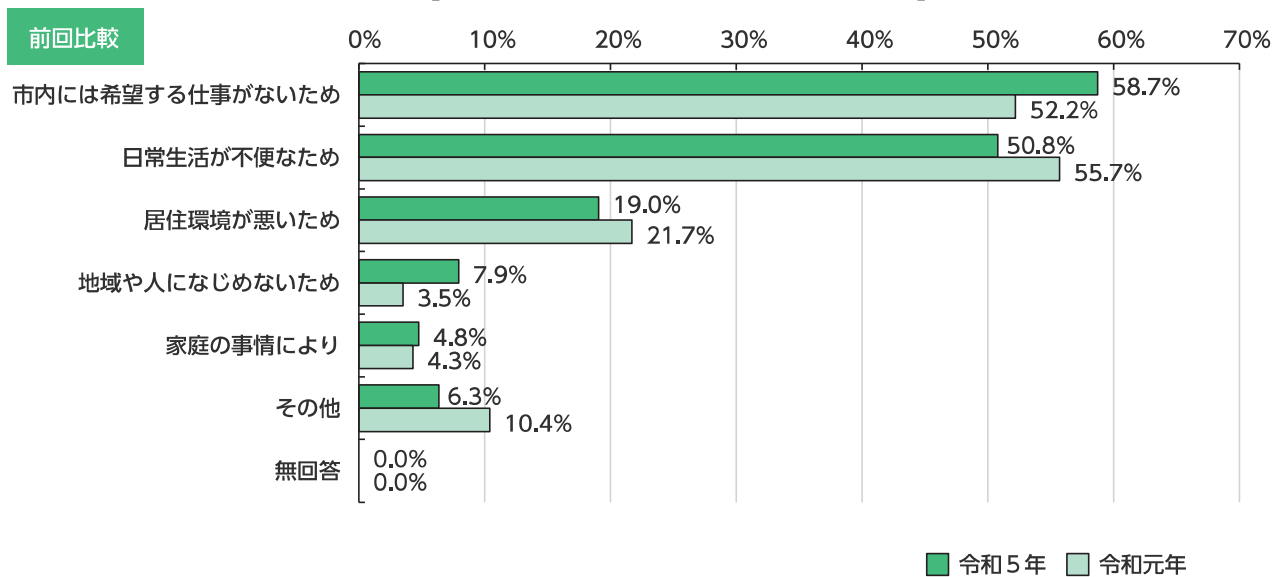
③ 中高生が美祢市で暮らさない理由

美祢市で暮らさない理由については、中学生、高校生ともに、「市内には希望する仕事がないため」「日常生活が不便なため」の順で高くなっています。前回比較をすると、順位の入替わりはあるものの、上位2項目は変わらず他の理由と大きくポイントが開いています。

【美祢市で暮らさない理由（中学生）】



【美祢市で暮らさない理由（高校生）】

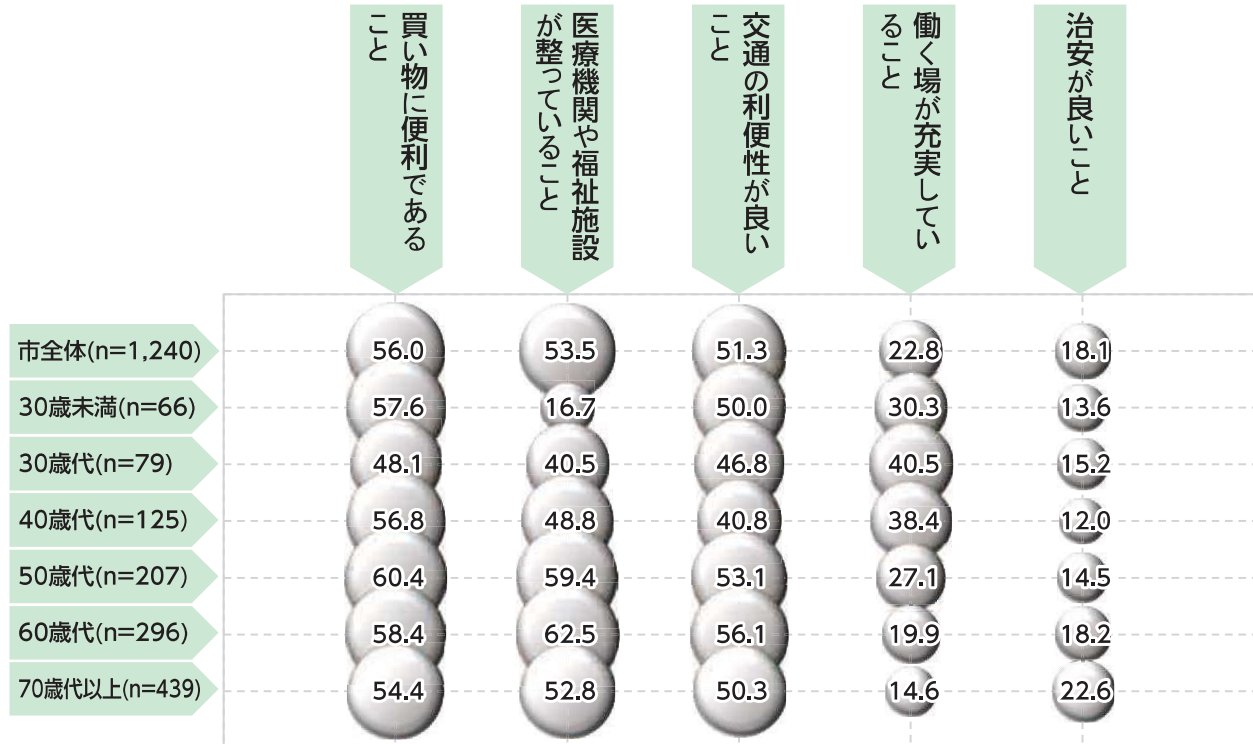


④ 暮らし続けるために必要なこと

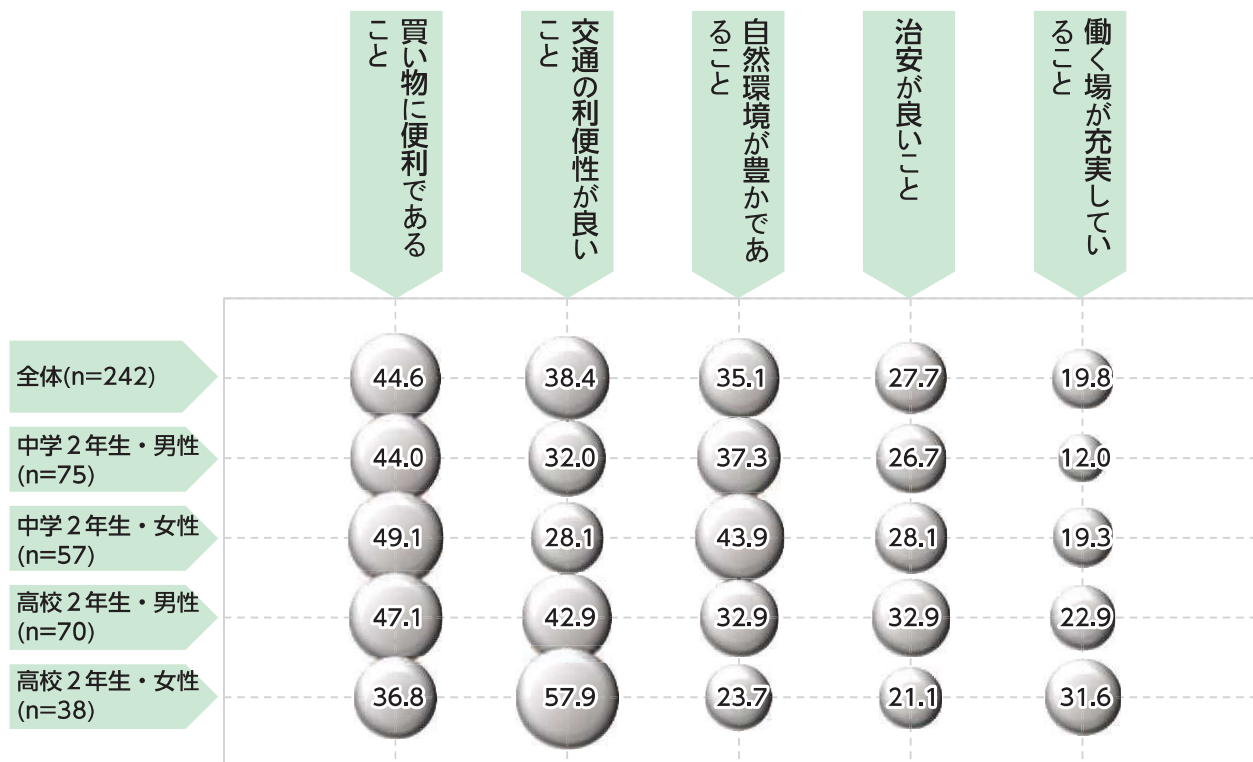
美祢市で暮らし続けるために必要なことについては、「買い物に便利であること」、「医療機関や福祉施設が整っていること」、「交通の利便性が良いこと」が高くなっています。

中高生では、「買い物に便利であること」、「交通の利便性が良いこと」、「自然環境が豊かであること」が高くなっています。

【美祢市で暮らし続けるために、必要なこと（市全体）】



【美祢市で暮らし続けるために、必要なこと（中高生）】



⑤ 施策の満足度と重要度

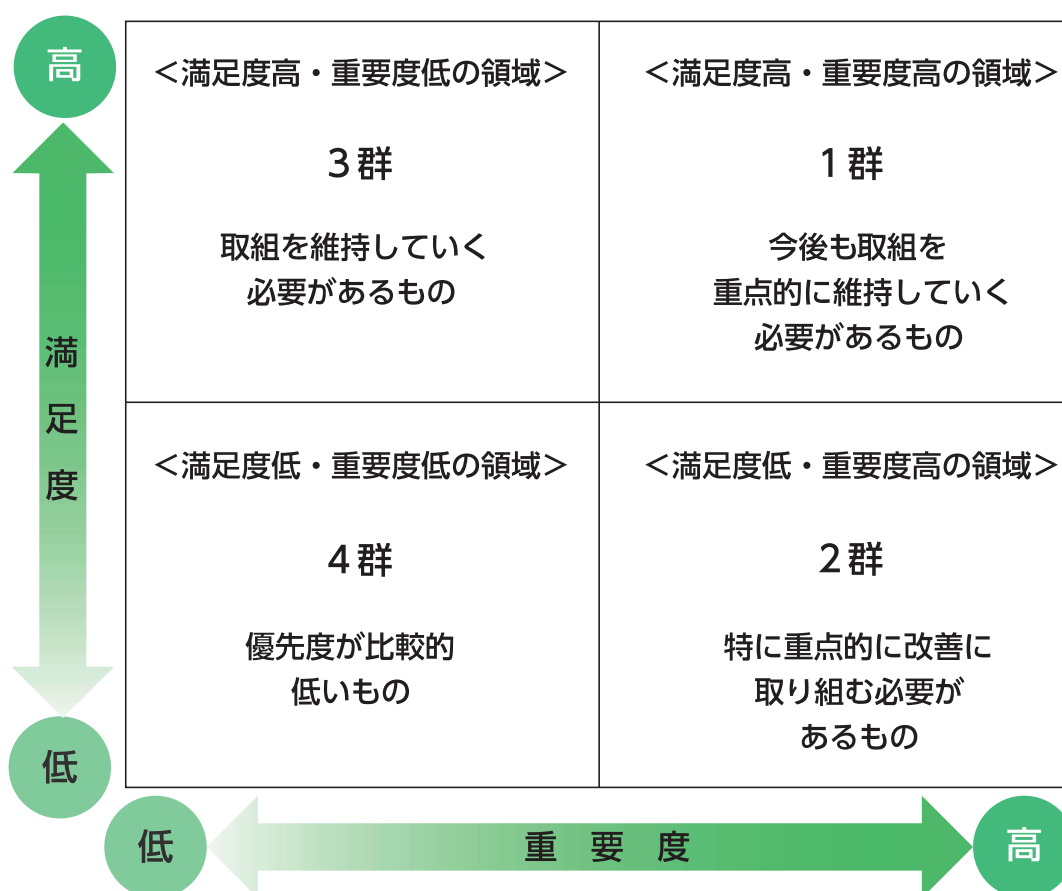
前期計画に基づき取り組んできた施策の優先度や今後の改善の必要性を把握するため、市の施策に対する市民の満足度・重要度を調査し、その施策ごとの評価点を算出した後、全施策の評価点の平均値（満足度・重要度）を基準とした4つのグループに分類して、施策ごとの相対的な位置づけを整理しています。

■算出方法について

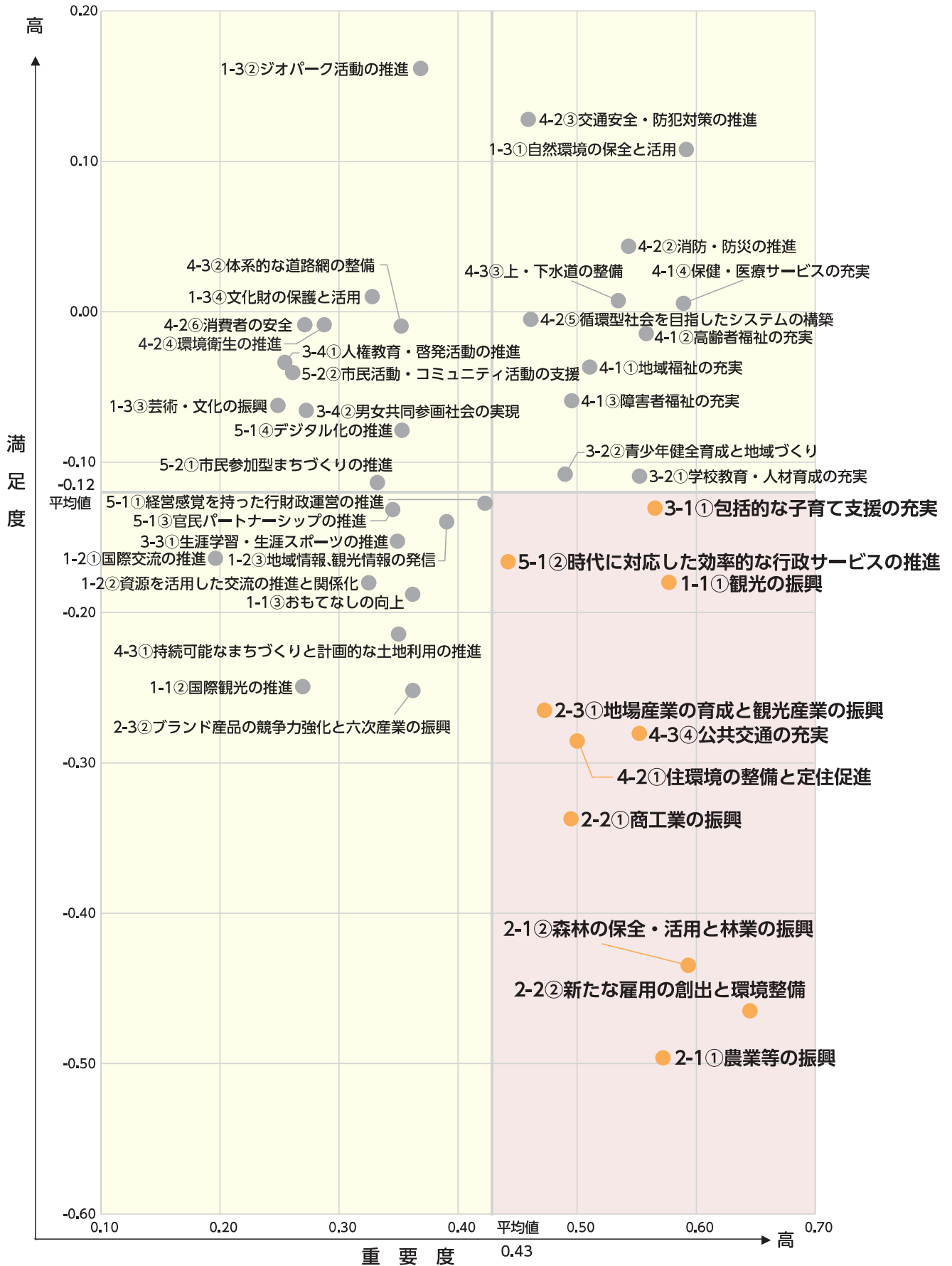
$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 2 + \text{「やや満足」} \times 1 + \text{「普通」} \times 0 + \text{「やや不満」} \times -1 + \text{「不満」} \times -2}{\text{「無回答」} \text{ 「分からない」 を除く有効回答数}$$

$$\text{重要度} = \frac{\text{「高い」} \times 2 + \text{「やや高い」} \times 1 + \text{「普通」} \times 0 + \text{「やや低い」} \times -1 + \text{「低い」} \times -2}{\text{「無回答」} \text{ 「分からない」 を除く有効回答数}$$

■グラフの見方



■満足度・重要度分類評価



■満足度・重要度（分類比較）

【1群】重要度も満足度も高く、今後も取組を重点的に維持していく必要があるもの

項	目	今回		前回		群			
		重要度	満足度	重要度	満足度				
1：「魅力の創出・交流」の拡大	3 ①自然環境の保全と活用	0.59	↗	0.11	↗	0.26	-0.01	3群	
3：市の宝となる「ひとの育成」	2 ①学校教育・人材育成の充実	0.55	↘	-0.11	↘	0.72	-0.08	1群	
	②青少年健全育成と地域づくり	0.49	↗	-0.11	↘	0.34	-0.05	3群	
4：安全・安心な「まちづくり」	1 ①地域福祉の充実	0.51	↗	-0.04	→	0.45	-0.04	1群	
		②高齢者福祉の充実	0.56	↘	-0.01	↗	0.78	-0.09	1群
		③障害者福祉の充実	0.50	↘	-0.06	↗	0.54	-0.10	1群
		④保健・医療サービスの充実	0.59	↘	0.01	↗	0.88	-0.35	2群
	2 ②消防・防災の推進	0.54	↗	0.04	↘	0.47	0.09	1群	
		③交通安全・防犯対策の推進	0.46	↗	0.13	↘	0.45	0.14	1群
	3 ⑤循環型社会を目指したシステムの構築	0.46	↗	0.00	→	0.34	0.00	3群	
3 ③上・下水道の整備	0.53	↗	0.01	↗	0.51	-0.04	1群		

【2群】重要度は高いが満足度が低く、特に重点的に改善に取り組む必要があるもの

項	目	今回		前回		群		
		重要度	満足度	重要度	満足度			
1：「魅力の創出・交流」の拡大	1 ①観光の振興	0.58	↗	-0.18	↗	0.52	-0.20	2群
2：強みを活かした「産業の振興」	1 ①農業等の振興	0.57	↗	-0.50	↘	0.45	-0.38	2群
		②森林の保全・活用と林業の振興	0.59	-	-0.43	-	-	-
	2 ①商工業の振興	0.49	↗	-0.34	↗	0.44	-0.50	2群
2：強みを活かした「産業の振興」	2 ②新たな雇用の創出と環境整備	0.65	↗	-0.46	↗	0.63	-0.48	2群
	3 ①地場産業の育成と観光産業の振興	0.47	↗	-0.26	↗	0.42	-0.33	2群
3：市の宝となる「ひとの育成」	1 ①包括的な子育て支援の充実	0.57	↘	-0.13	↘	0.63	-0.09	1群
4：安全・安心な「まちづくり」	2 ①住環境の整備と定住促進	0.50	↗	-0.29	↘	0.33	-0.17	4群
4：安全・安心な「まちづくり」	3 ④公共交通の充実	0.55	→	-0.28	↗	0.55	-0.64	2群
		5：「行財政運営」の強化	1 ②時代に対応した効率的な行政サービスの推進	0.44	→	-0.17	↗	0.44

【3群】重要度は低いが満足度が高く、今後も取組を維持していく必要があるもの

項	目	今回		前回		群			
		重要度	満足度	重要度	満足度				
1：「魅力の創出・交流」の拡大	3 ②ジオパーク活動の推進	0.37	↗	0.16	↗	0.14	-0.03	3群	
		③芸術・文化の振興	0.25	↗	-0.06	↗	0.16	-0.11	3群
		④文化財の保護と活用	0.33	↗	0.01	↗	0.26	-0.02	3群
3：市の宝となる「ひとの育成」	4 ①人権教育・啓発活動の推進	0.25	↗	-0.03	→	0.21	-0.03	3群	
		②男女共同参画社会の実現	0.27	↗	-0.07	→	0.17	-0.07	3群
4：安全・安心な「まちづくり」	2 ④環境衛生の推進	0.27	↗	-0.01	↗	0.18	-0.03	3群	
		⑥消費者の安全	0.25	↘	-0.01	↘	0.31	0.01	3群
	3 ②体系的な道路網の整備	0.35	↗	-0.01	↘	0.33	0.17	3群	
5：「行財政運営」の強化	1 ④デジタル化の推進	0.35	-	-0.08	-	-	-	-	
		2 ①市民参加型まちづくりの推進	0.33	↗	-0.11	↗	0.28	-0.15	3群
5：「行財政運営」の強化	2 ②市民活動・コミュニティ活動の支援	0.26	↗	-0.04	↗	0.21	-0.11	3群	

【4群】重要度も満足度も低く、優先度が比較的低いもの

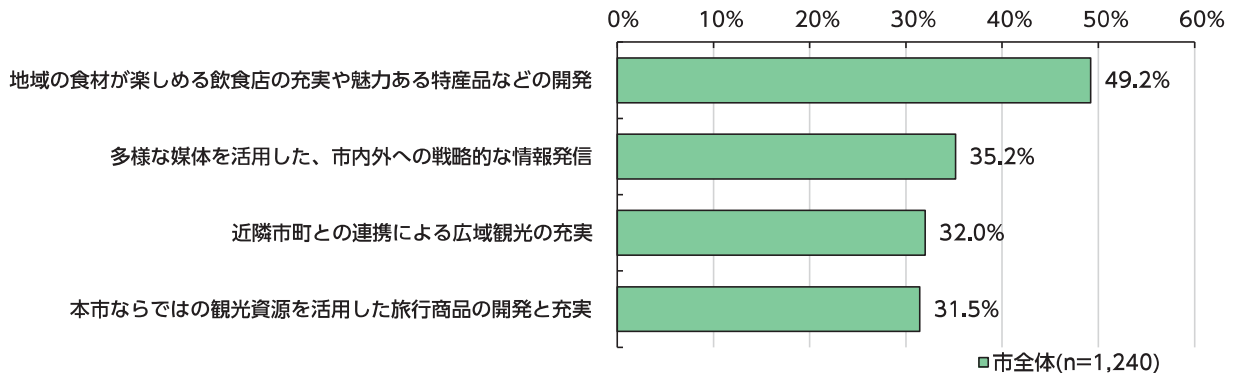
項	目	今回		前回		群		
		重要度	満足度	重要度	満足度			
1：「魅力の創出・交流」の拡大	1 ②国際観光の推進	0.27	-	-0.25	-	-	-	-
		③おもてなしの向上	0.36	↗	-0.19	↗	0.22	-0.20
	2 ①国際交流の推進	0.20	↗	-0.16	↘	0.09	-0.08	3群
		②資源を活用した交流の推進と関係化	0.32	-	-0.18	-	-	-
2：強みを活かした「産業の振興」	3 ③地域情報、観光情報の発信	0.39	-	-0.14	-	-	-	-
		②ブランド製品の競争力強化と六次産業の振興	0.36	↘	-0.25	↗	0.45	-0.28
3：市の宝となる「ひとの育成」	3 ①生涯学習・生涯スポーツの推進	0.35	↘	-0.15	↘	0.36	-0.06	3群
4：安全・安心な「まちづくり」	3 ①持続可能なまちづくりと計画的な土地利用の推進	0.35	↗	-0.21	↗	0.27	-0.48	4群
5：「行財政運営」の強化	1 ①経営感覚を持った行財政運営の推進	0.43	↘	-0.13	↗	0.47	-0.25	2群
		③官民パートナーシップの推進	0.35	↗	-0.13	↗	0.24	-0.18

⑥個別のアンケート結果

満足度・重要度分析結果により第2群に分類された「特に重点的に改善に取り組む必要があるもの」に関連するアンケートの上位4項目を示しています。

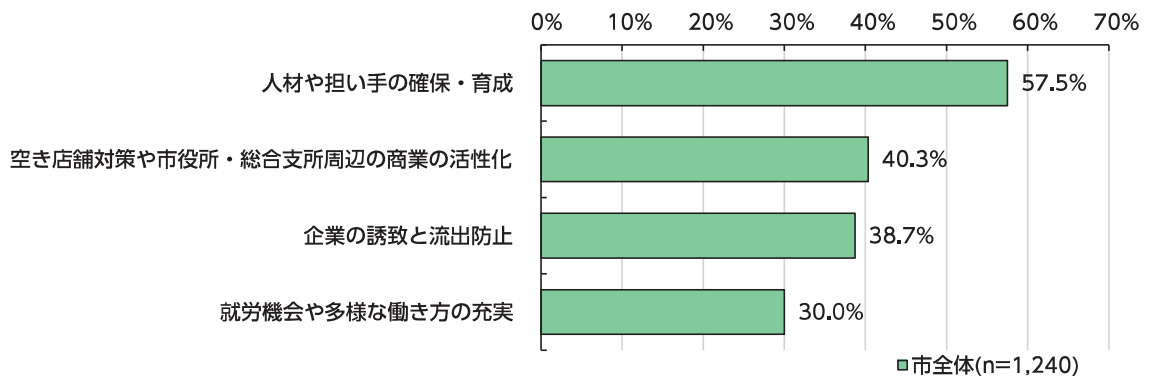
■観光の活性化

【観光の活性化のために市が力を入れるべきこと】



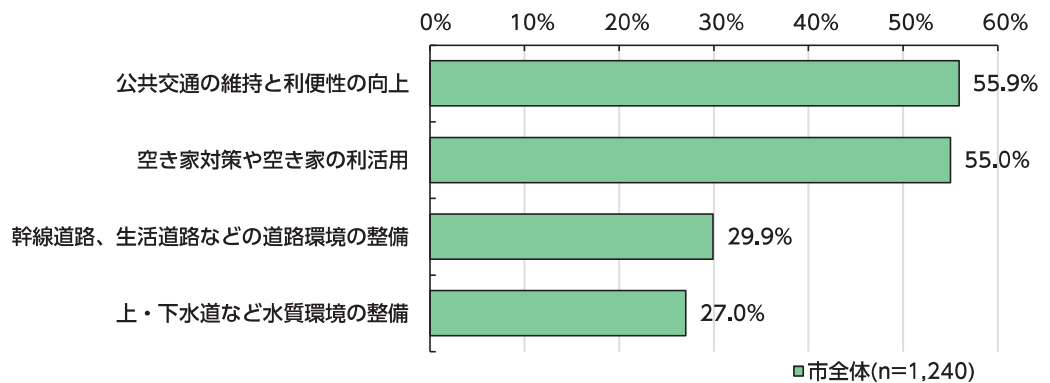
■産業の振興

【産業の振興のために市が力を入れるべきこと】



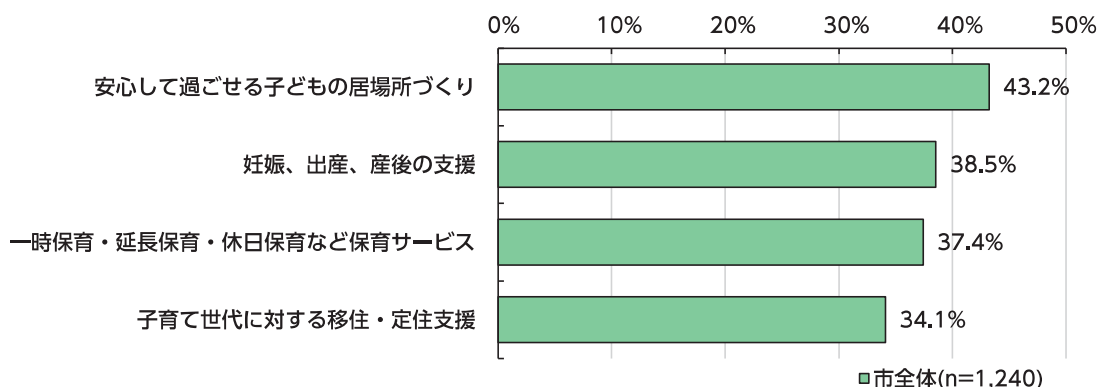
■生活環境

【生活環境のために市が力を入れるべきだと思うこと】



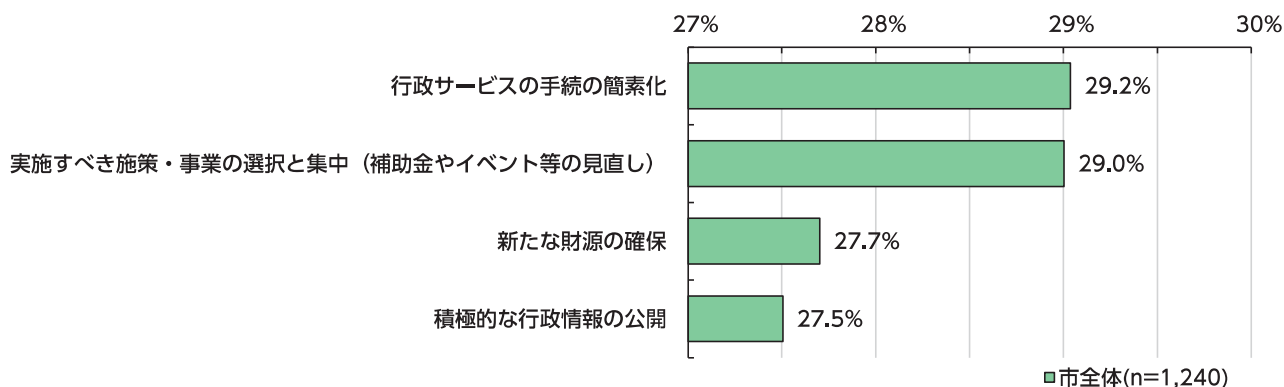
子育て

【子育てのために市が力を入れるべきだと思うこと】



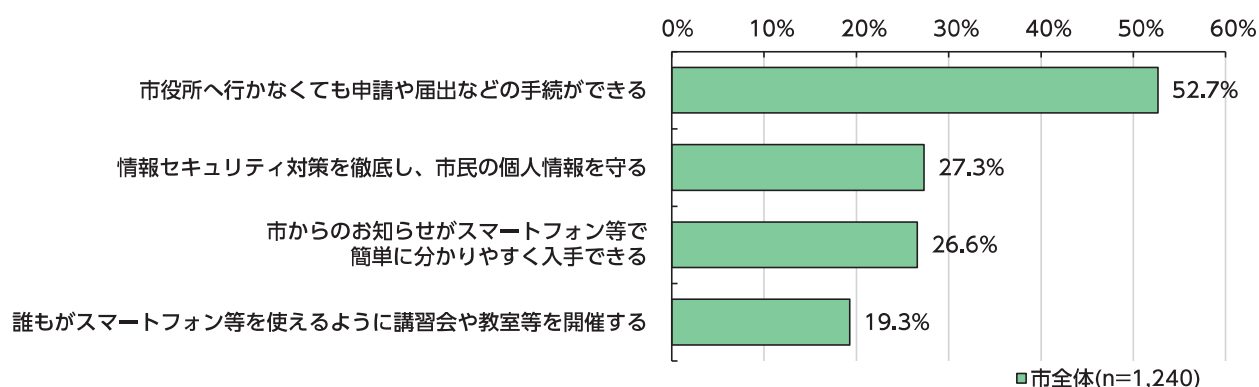
行財政運営

【より良い行財政運営のために市が力を入れるべきだと思うこと】



デジタル

【デジタル化の取組で期待すること】



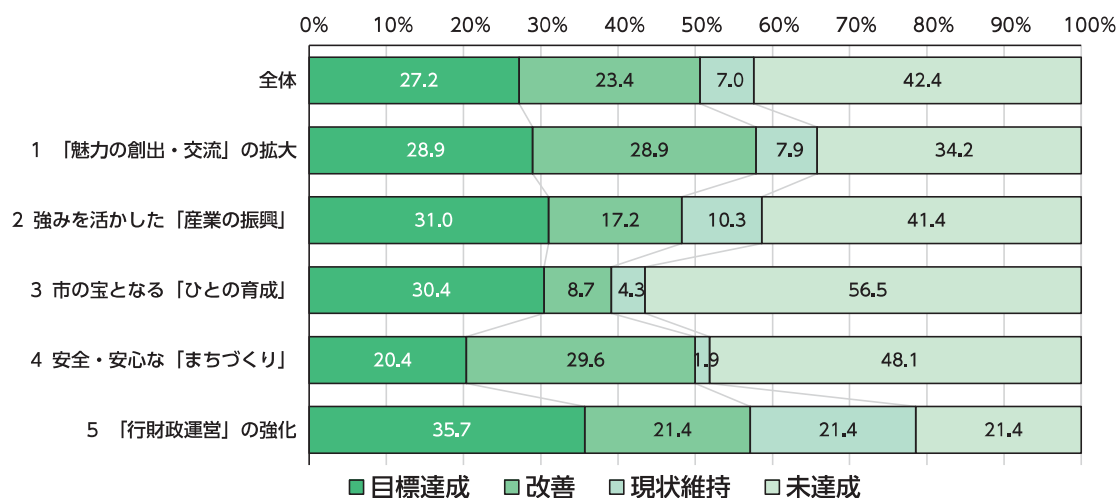
5. 第二次美祢市総合計画前期計画の評価

(1) 目標指標・KPIの達成状況

前期基本計画や第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗や達成状況を確認するため、毎年度指標の確認を行い、その達成状況を把握しています。後期計画を策定するに当たり、令和4年度終了時点での数値による達成状況を検証しました。

■前期基本計画

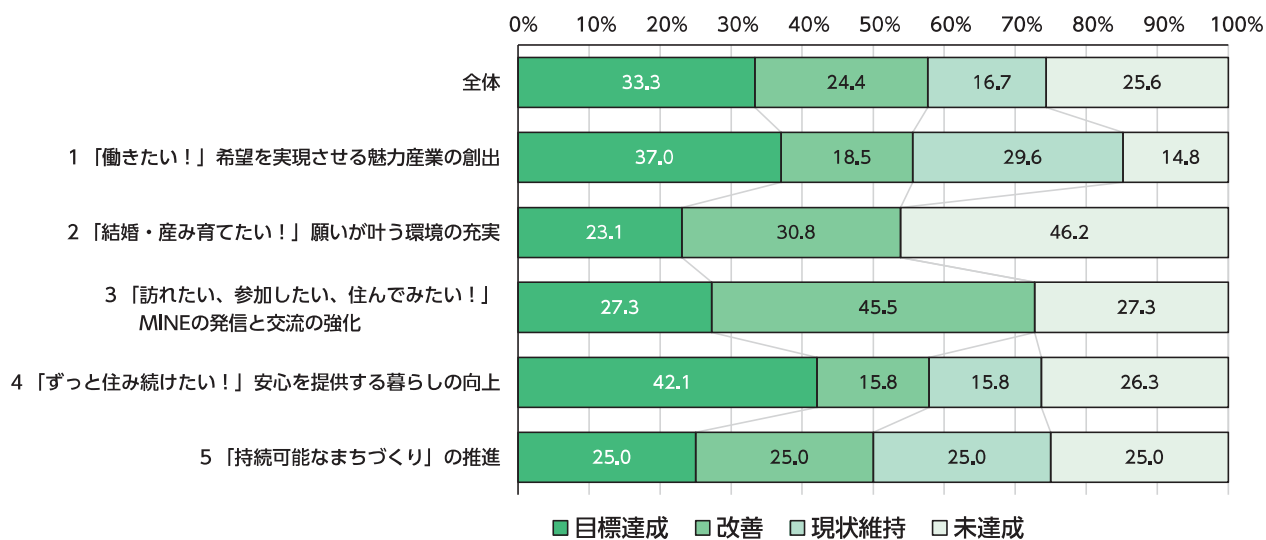
基本目標	目標達成	改善	現状維持	未達成
1 「魅力の創出・交流」の拡大	11	11	3	13
2 強みを活かした「産業の振興」	9	5	3	12
3 市の宝となる「ひとの育成」	7	2	1	13
4 安全・安心な「まちづくり」	11	16	1	26
5 「行財政運営」の強化	5	3	3	3



■第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

重点戦略	目標達成	改善	現状維持	未達成
1 「働きたい！」希望を実現させる魅力産業の創出	10	5	8	4
2 「結婚・産み育てたい！」願いが叶う環境の充実	3	4	0	6
3 「訪れたい、参加したい、住んでみたい！」MINEの発信と交流の強化	3	5	0	3
4 「ずっと住み続けたい！」安心を提供する暮らしの向上	8	3	3	5
5 「持続可能なまちづくり」の推進	2	2	2	2





(2) 分析結果の整理

本市を取り巻く社会情勢や環境の変化、前期計画期間中の主な取組を整理し、市民アンケート結果を踏まえ、後期計画の策定に当たり、主な分析結果を整理しました。

■前期基本計画

基本目標	社会情勢や環境の変化	前期の主な取組	アンケート結果	主な分析結果
①「魅力の創出・交流」の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による観光客数の減少 ・観光・旅行スタイルの変化 ・秋吉台上の大型宿泊施設の廃業 ・イベント等のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における観光施策の強化 ・アウトドア需要の高まりを踏まえた施策展開 ・Mine秋吉台ジオパークの日本ジオパークの再認定 	◎観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・観光による経済循環の仕組みづくり ・観光客等の受入体制の充実 ・インバウンド対策の強化 ・シティプロモーションの強化 ・ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動の推進
②強みを活かした「産業の振興」	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における燃料価格・物価高騰 ・人口減少、少子高齢化に伴う人材・担い手不足 ・有害鳥獣の個体数の増加 ・空き店舗等の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の定着促進による担い手の確保 ・遊休農地対策と農地流動化の推進 ・コロナ禍における燃料価格・物価高騰対策 ・美祢テクノパークへの企業誘致 ・美祢市観光協会のDMO登録 	<ul style="list-style-type: none"> ◎農業等の振興 ◎森林の保全・活用と林業の振興 ◎商工業の振興 ◎新たな雇用の創出と環境整備 ◎地場産業の育成と観光産業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足、担い手不足への対応 ・農林業における経営基盤の強化 ・起業・創業の促進 ・企業誘致と雇用の場の充実 ・みねDMOと一体となった観光地域づくり



基本目標	社会情勢や環境の変化	前期の主な取組	アンケート結果	主な分析結果
③市の宝となる「ひとの育成」	<ul style="list-style-type: none"> 急速に進展する少子化 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない包括的な支援体制の強化 教育におけるデジタル化の推進 教員の働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代への経済的支援の強化 GIGAスクール構想などの教育環境の整備 教育改革プロジェクト(公設塾mineto等) 部活動の地域移行 	<ul style="list-style-type: none"> ◎包括的な子育て支援の充実 ○学校教育・人材育成の充実 ○青少年健全育成と地域づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代に対する切れ目のない相談支援体制の構築 次代を担う人材の育成 魅力ある学校づくり 地域スポーツクラブ活動等の体制構築
④安全・安心な「まちづくり」	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における生活者への影響 複雑化・多様化する複合的な課題の増加 高齢化の進展 地域共生社会の推進 医療・介護従事者の確保 地方への移住に対する関心の高まり 空き家の増加 大規模災害の発生(美祢線の橋梁の流出) 脱炭素化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に対する生活者支援 健幸百寿プロジェクトの稼働 医療・介護従事者への支援制度による従業員の確保対策 消防防災センター、防災情報伝達システムの整備 被災者支援 木質バイオマス熱利用面的導入 水道水の硬度低減化(軟水化) ジオタクエリアの拡大、ジオバスの運行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ◎住環境の整備と定住促進 ◎公共交通の充実 ○地域福祉の充実 ○高齢者福祉の充実 ○障害者福祉の充実 ○循環型社会を目指したシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 複合的な課題に対する包括的相談支援体制の整備 医療・福祉サービスなど日常生活に必要なサービスの維持 定住・移住人口の確保と関係人口の拡大 地域防災力の向上 カーボンニュートラルの取組の推進 都市拠点、地域拠点を中心としたにぎわいの創出 公共交通サービスの維持
⑤「行財政運営」の強化	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口の減少 公共施設やインフラの更新需要の増加 コロナ禍で加速するデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> 第三セクターの吸収合併 マイナンバーカードの普及促進 連携協定などによる民間活力の導入 Mineみらいトークの実施 地域運営組織の法人化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎時代に対応した効率的な行政サービスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な行財政運営 公共施設マネジメントの推進 自治体DXの推進 コミュニティ活動における地域外人材の効率的活用

アンケート結果：施策の満足度・重要度分析

◎満足度が低く・重要度が高い領域(2群)

○満足度が高く・重要度が高い領域(1群)のうち、満足度が0以下のもの

■第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

重点戦略	社会情勢や環境の変化	前期の主な取組	アンケート結果	主な分析結果
①「働きたい！」「希望を実現させる魅力産業の創出」	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における燃料価格・物価高騰 ・生産年齢人口の減少 ・人口減少、少子高齢化に伴う人材・担い手不足 ・コロナ禍におけるインバウンドの減少 ・空き店舗等の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・美祢市観光協会のDMO登録 ・観光施設整備の受入環境整備 ・新規就農者の定着促進による担い手の確保 ・遊休農地対策と農地流動化の推進 ・美祢テクノパークへの企業誘致 ・コロナ禍における燃料価格・物価高騰対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◎農業等の振興 ◎森林の保全・活用と林業の振興 ◎商工業の振興 ◎新たな雇用の創出と環境整備 ◎地場産業の育成と観光産業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足、担い手不足への対応 ・みねDMOと一体となった観光地域づくり ・農林業における経営基盤の強化 ・企業誘致と雇用の場の充実 ・起業・創業の促進
②「結婚・産み育てたい！」「願いが叶う環境の充実」	<ul style="list-style-type: none"> ・急速に進展する少子化 ・妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない包括的な支援体制の強化 ・教育におけるデジタル化の推進 ・教員の働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・GO-ENプロジェクトの始動 ・子育て世代への経済的支援の強化 ・GIGAスクール構想などの教育環境の整備 ・教育改革プロジェクト(公設塾 mineto等) ・部活動の地域移行 	<ul style="list-style-type: none"> ◎包括的な子育て支援の充実 ○学校教育・人材育成の充実 ○青少年健全育成と地域づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代に対する切れ目のない相談支援体制の構築 ・次代を担う人材の育成 ・魅力ある学校づくり ・地域スポーツクラブ活動等の体制構築
③「訪れたい、参加したい、住んでみたい！」「MINES発信と交流の強化」	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による観光客数の減少 ・観光・旅行スタイルの変化 ・秋吉台上の大型宿泊施設の廃業 ・イベント等のデジタル化 ・地方への移住に対する関心の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における観光施策の強化 ・デジタル技術(NFT)を活用したシティプロモーション ・アウトドア需要の高まりを踏まえた施策展開 	<ul style="list-style-type: none"> ◎観光の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションの強化 ・観光による経済循環の仕組みづくり ・観光客等の受入体制の充実 ・インバウンド対策の強化 ・定住・移住人口の確保と関係人口の拡大 ・ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動の推進



重点戦略	社会情勢や環境の変化	前期の主な取組	アンケート結果	主な分析結果
④「ずっと住み続けたい」「安心を提供する暮らしの向上」	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における生活者への影響 ・空き家の増加 ・大規模災害の発生（美祢線の橋梁の流出） ・複雑化・多様化する複合的な課題の増加 ・高齢化の進展 ・地域共生社会の推進 ・医療・介護従事者の確保 ・公共施設やインフラの更新需要の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に対する生活者支援 ・消防防災センター、防災情報伝達システムの整備 ・被災者支援 ・健幸百寿プロジェクトの稼働 ・医療・介護従事者への支援制度による従業者の確保対策 ・ジオタクエリアの拡大、ジオバスの運行開始 ・地域運営組織の法人化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎住環境の整備と定住促進 ◎公共交通の充実 ◎時代に対応した効率的な行政サービスの推進 ○地域福祉の充実 ○高齢者福祉の充実 ○障害者福祉の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災力の向上 ・複合的な課題に対する包括的相談支援体制の整備 ・医療・福祉サービスなど日常生活に必要なサービスの維持 ・都市拠点、地域拠点を中心としたにぎわいの創出 ・公共施設マネジメントの推進 ・公共交通サービスの維持 ・コミュニティ活動における地域外人材の効率的活用
⑤「持続可能なまちづくり」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素化の推進 ・コロナ禍で加速するデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・Mine秋吉台ジオパークの日本ジオパークの再認定 ・木質バイオマス熱利用面的導入 ・マイナンバーカードの普及促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎循環型社会を目指したシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの取組の推進 ・自治体DXの推進

アンケート結果：施策の満足度・重要度分析

◎満足度が低く・重要度が高い領域（2群）

○満足度が高く・重要度が高い領域（1群）のうち、満足度が0以下のもの



